

I-A-31

蛋白尿に対するツムラ柴苓湯の効果について

大阪鉄道病院泌尿器科

○堀井明範，尾崎祐吉

ツムラ柴苓湯は，柴胡，沢瀉，半夏を主剤とする得効方を出典とする方剤である。その薬理作用として，利尿，抗炎症作用があると言われている。今回我々は，外来通院中の蛋白尿を呈している症例20例に対し当剤を投与し，その効果を検討したので報告する。

対象ならびに方法

対象とした症例は大阪鉄道病院泌尿器科に通院中の蛋白尿症例20例である。男子9例女子11例で平均年齢は37才であった。柴苓湯投与に伴う効果判定のパラメーターとして尿蛋白定量，尿中 β_2 -Microglobulin，尿中NAGを測定し，その計時的変化を観察した。

効果判定ならびに結果

評価パラメーター中，2項目以上に改善をみたものを有効とし，1項目につき有効であったものは，少々有効とした。3項目全てに改善をみたものがあれば著効であったが，今回の検討症例中に著効はなく，有効4例，少々有効5例の計9例につき，臨床的に有効と考えられた。

結語

柴苓湯には，小柴胡湯ならびに五苓散の合剤であるところから，それぞれの薬効，即ち炎症の寛解ならびに利尿の両作用が期待し得る。我々は腎炎に起因したと考えられる蛋白尿について，本剤を投与し，その効果をみたが，漢方剤単独であることを考えると，有効性は高い様に思われた。近時，ステロイド療法から脱却した各種薬剤の併用による治療法が考えられつつあるが，柴苓湯はその併用療法的一端を担うものと考えられる。その薬理作用，ならびに作用機作については，更に症例を重ねて検討を要すると思われた。